

岡山芸術交流新聞

芸術との出会い、ここにあります

Under the Sky of Okayama

What is your identity? The Okayama Art Summit brings together artworks by artists from all over the world. A wide variety of identities are gathered here. If you are from a country other than Japan, please try to find artworks created by artists from the same country or a nearby region. I am sure you will enjoy the artworks from different perspectives more than we Japanese do. The places where the Art Summit takes place are also fascinating. At Korakuen Garden, various events are held to allow visitors to experience Japanese culture from season to season. At the Okayama Orient Museum, visitors will be able to feel the history of the Orient and the international exchange that has been taking place since ancient times. We would like to use this Art Summit as an opportunity to make Okayama the place where everyone can fulfill their dream, regardless of nationality, age, gender, or language under the same sky.



©Okayama Art Summit 2022
芝生作品の上に描かれた、小学生たちによる人文字

今回紹介する岡山芸術交流とは、2016年から3年に1回岡山市で開催されている国際現代美術展であり、今回は9月30日(金)から11月27日(日)まで約2か月間開催される。

学校、岡山県天神山文化プラザ、岡山市立オリエンタル美術館、シネマ・クレール丸の内、林原美術館、岡山後楽園、岡山神社、石山公園、岡山城、岡山天満屋の計10ヶ所である。

今回の岡山芸術交流2022のタイトルは「Dove dream under the same sky」で、アーティストリック・テイラウアーは「クリック・テイラウアー」は本展のステイトメントの中で「ここでいう夢は、違いのある空や、多元性のある空で見る夢、つまり、西洋的規範の周縁にある物語表現の中で見る夢を意味しています。私たち(参加者)と鑑賞者からすると、外が規範的のみならず世界の外にある表現を経験するということ。言い換えると、物語や人生、そして考え方には、聞き方、あり方、さらには希望、野心、そして日常の中で心を動かされるような夢を超えた存在の仕方を対して、私たちの目を開かせてくれる夢を意味しています。」と記している。

DO WE DREAM UNDER THE SAME SKY

2022. 9.30 FRI - 11.27 SUN

ノートルダム清心女子大学



okayama art summit 2022
岡山芸術交流 2022
パブリックプログラム ジャーナルプロジェクト

アートは自分を映し出す鏡



音楽と共に、海へ、海へと進む鳥袋氏のスワンボート

会場で展示されている作品の中から、2つの作品について感想や意見を参加者の方々に伺った。そこで私たちは、ある共通点を導き出した。

1つ目の作品は、鳥袋道浩氏の「Swan Boat the Sea」である。これは、旧内山下小学校の2階で上映されている映像作品である。鳥袋氏は、幼少期に岡山で母親とスワンボートに乗った思い出を持つ。大人になり世界各国を巡った彼は40年振りに岡山に帰ってきて、スワンボートが旭川にそのまま残っていることに驚いた。彼はそのスワンボートに乗って、海へ行くことを決意した。作品には実際のスワンボートで海に出る旅の様子が、音楽と共に収められている。その音楽はこの旅で鳥袋氏自身の頭の中にも流れていたものを再現したものである。来場者には、この部屋で抱いた感想と、「なぜ鳥袋氏はスワンボートで海へ行ったと決意したのか」という2点を伺った。

「どうか」という2点を伺った。感想としては「軽やかな音楽と、スワンボートが海に漂っているという非日常感に心が踊る」「広い海に白鳥のボートがぼつんと一台だけ進んでいる姿や、作品中に流れている音楽が少し寂しそうだ」「子供の頃に聞いた白鳥のボートが懐かしい」など多種多様な声がかかった。また、スワンボートで海に出た理由に関して「海は生命の根源だから」「海は世界に繋がっていて、世界を見せてあげようと思ったから」「海は自分が大人になり成長したからこそ連れていける大きくなって広い場所だから」「母と共に乗った白鳥ボートで思い出を過去にとどめたくなくて、思い出し白鳥と共に未来への新たな一歩を踏み出したかったから」などが挙げられた。

2つ目の作品は、バルバラ・サンチェス・カネの「悪臭の詩」である。この作品も1つ目と同様、旧内山下小学校の2階に展示されているもので、教室という空間そのものが芸術作品となっている。この部屋を目にした多くの来場者が驚きの声を上げていた。それもそのはずである。部屋の中央には骨が剥き出しの白い人形のようなものがそびえ立ち、生徒とみられる人々には頭も四肢もない。これは、教室という空間そのものが、人間の存在そのものが、また、精肉工場であり、また、精肉工場解体された牛の骨の山であり、多くの生徒らしき者たちがその光景を眺めながら、自分自身を映し出す鏡のような存在であると考えられる。

異世界空間?!

一羽のボートから広がる夢

「なんか好きかも」の理由は「夢」のなか?!

これらの2作品に共通しているのは、作品を見て自分が「現在」を感じたことをきっかけに、今ではもう戻れなくなってしまう「過去」や、今はまだ到達することのできない「未来」への思いも馳せることができるということだ。ここで言う「過去」とは、作品を見たことで、かつての母との思い出や教室という場所自体への恐怖を感じていたことなどを指す。また、「未来」は母との思い出を過去にとどめたいために新たに作品を生み出したり、部屋全体を緑色にすることで自由に想像する空間を作ったりすることである。

私たちがこの「過去」でも「未来」でもないことを、今回の岡山芸術交流のテーマに習い、「夢」という言葉で捉える。

あなたは「夢」と聞くと、将来に期待を込めることを想像するだろうか? それとも私たちが寝ているときに見る架空の物語を思い出すだろうか? もし、あなたが叶わなかった願いがあったとしても、本当は誰かに伝えたかった願いがあったとしても、もう「過去」には戻ることができない。「未来」も同じだ。絶対に叶えたいと願うことがあったとしても、確かな予測があったとしても、見られる確信は誰にもないし、訪れるその時を待たず待つか? 思い浮かぶだろうか? ぜひ、あなたに「夢」を見るための「好き」を「夢」の中で探してほしい。

皆さんと同じ空の下で、「夢」を見られることを楽しみにしている。



岡山市内各所で見受けられる展覧会のフラッグ



授業風景に溶け込む生徒らしきオブジェたち